

コミットメントが 国際的に評価されるために

分科会3 たんぱく質摂取推進

分科会のゴール (農林水産省「東京栄養サミット」に向けた日本の取組(2020年11月)より)

- **分科会では、テーマ毎に、前提となる考え方を統一することを目指す。**これにより、同じフォーマットに沿って各社独自のコミットメントを作成することで、作業がしやすくなり、日本企業の考え方が明確に伝える。
- コミットメントは栄養サミットのために新たに作成するものではない。コミットメントは各企業の経営経営計画に即して、関連する内容を「コミットメント」に翻訳し直す作業である。
- また作成にあたっては、海外で事業展開を見据えて、**欧米の評価指標に対応**できるようにすることも重要。
- 日本企業にとっては欧米の指標と相容れない部分については、その軌道修正をサミットの間を通じて働きかけていく（コンパクトへの反映を目指す）。

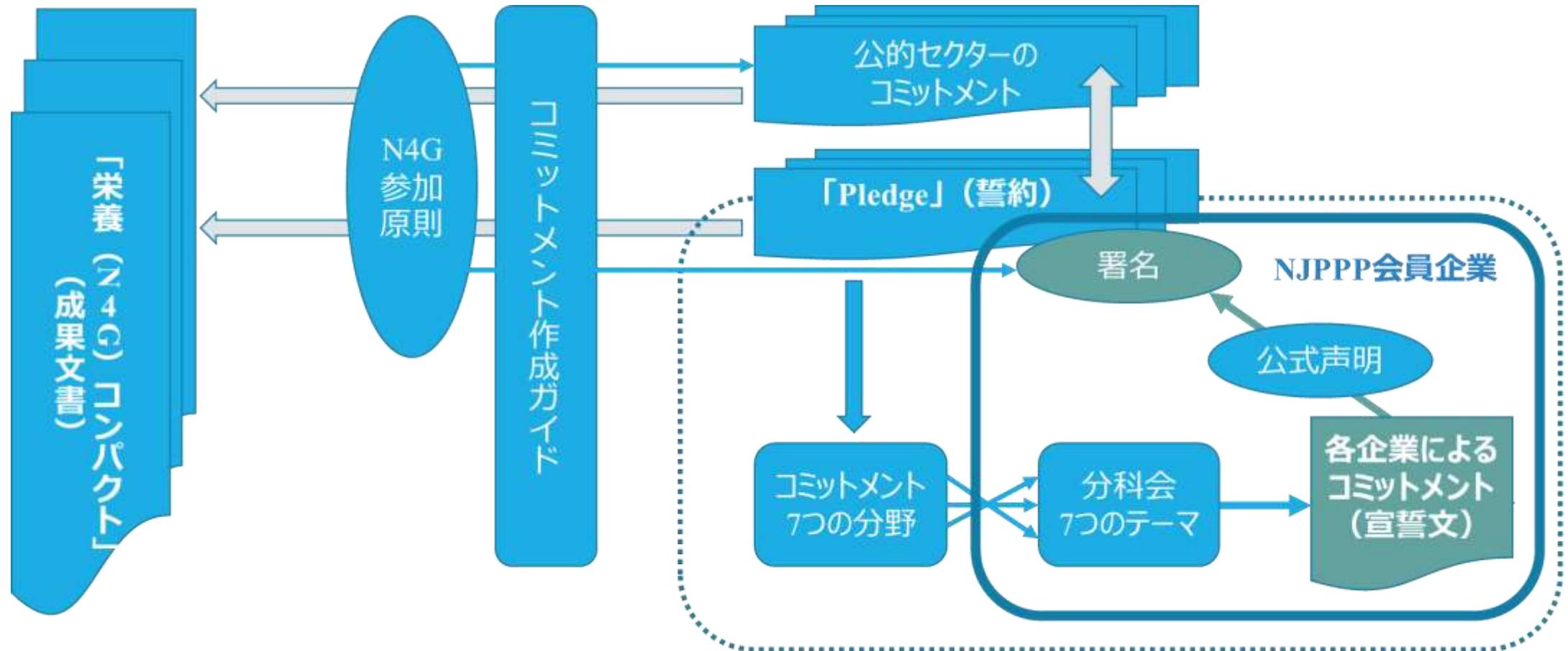
コンパクト作成に係る前提となる考え方

- 分科会では、テーマ毎に、**前提となる考え方**を統一することを目指す。これにより、同じフォーマットに沿って各社独自のコミットメントを作成することで、作業がしやすくなり、日本企業の考え方が明確に伝える。

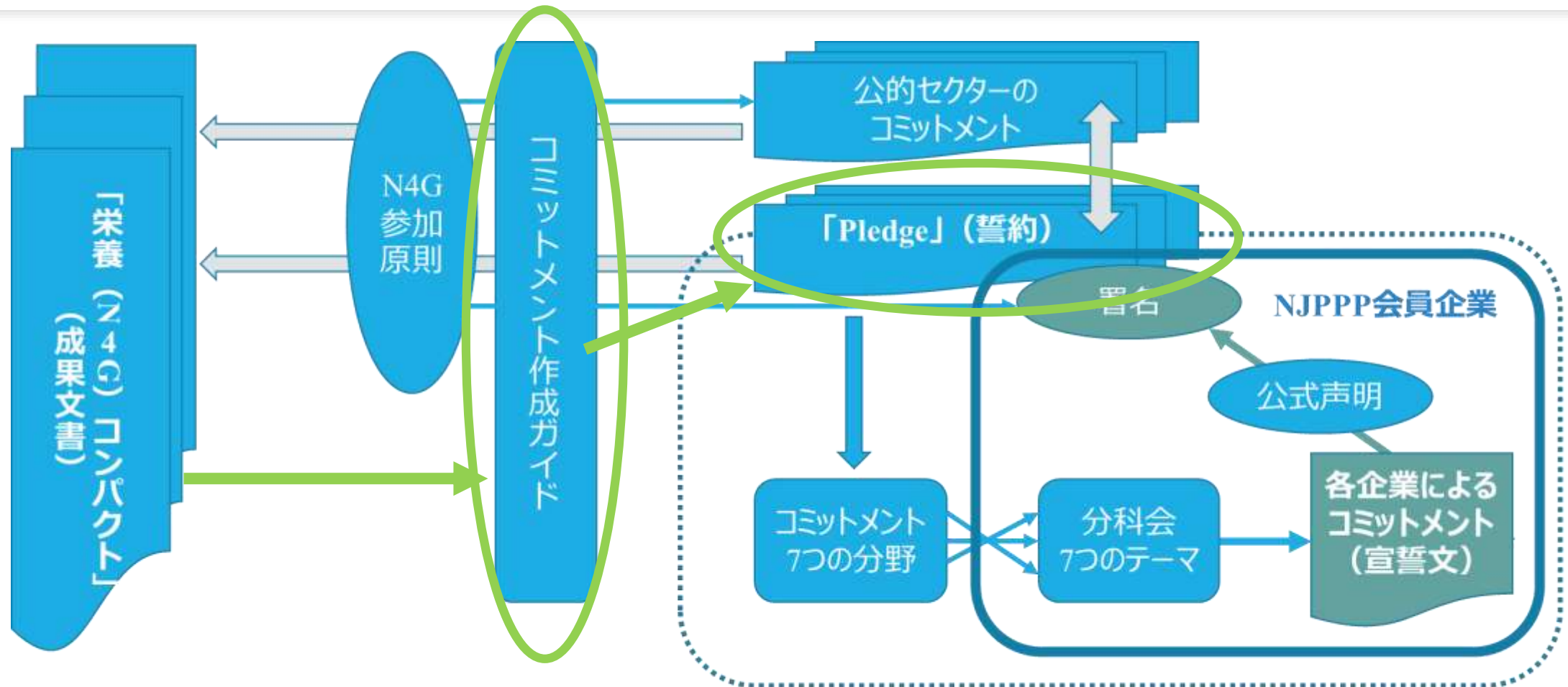
⇒前提となる考え方

⇒**栄養コンパクト（成果文書）を意識したうえで前提となる考え方を統一することで、国際的な評価も得られやすい各社の個別コミットメントが作りやすくなる。**

コンパクト作成に係る前提となる考え方



コンパクト作成に係る前提となる考え方



Pledgeとコミットメントの関係

- 「Pledge」とは何か

東京2020N4Gサミットで提示される民間セクターのコミットメントの枠組み

- Pledgeに署名する企業・団体が実行すること
 - 栄養改善を長期的かつ取締役会級の優先事項とする
 - SDGsの目標2（飢餓をゼロに）、3（すべての人に健康と福祉を）に重点を置いた企業戦略
 - フードシステムの性質を考慮した栄養への投資確保
 - **5原則を満たすコミットメント**
 - N4Gのアカウンタビリティフレームワークを通じて、Pledgeとしてなされたコミットメントの報告

Pledgeとコミットメントの関係

《5原則を満たすコミットメント》

・5原則を満たすコミットメント

- ① SMARTであること
- ② 企業/企業団体のコアビジネスと密接に連携すること
- ③ 低栄養（栄養不足）・過剰栄養の両方を含む栄養課題の成果に対しポジティブ影響を与えること
- ④ 社会・環境システムへのネガティブな影響を緩和し、ポジティブな影響が増幅され社会・環境的な要因とのトレードオフを考慮すること
- ⑤ 国内/国際的な栄養に関する優先事項、N4G参加原則およびN4G Accountability Frameworkとの整合性をとること

+コミットメントを作成する手順をサポートするN4Gコミットメントガイドを参照する。

N4Gにおける「コミットメント」の原則

- 「コミットメント」とは何か

「国際栄養目標及びターゲットの達成に向けた進捗を支援する、計画的、政策的、あるいは財政的なもの」（コミットメント作成ガイドP9）

- コミットメントは同時に以下の4つの基準を満たす。

- SMARTであること
- 国の優先事項に沿ったものであること
- 栄養サミット参加原則に沿ったものであること
- 説明責任の枠組み（＝N4G Accountability Framework）との整合性があること

N4Gにおける「コミットメント」の原則

コミットメント作成ガイド

SMARTであること

国の優先事項に沿ったものであること

栄養サミットの参加原則に沿ったものであること

説明責任の枠組みとの整合性があること

Pledge

SMARTであること

企業/企業団体のコアビジネスと密接に連携すること（※SDGsとも深いかわり！）

低栄養・過栄養の両方を含む栄養課題の成果に対しポジティブ影響を与えること

社会・環境システムへのネガティブな影響を緩和し、ポジティブな影響が増幅され社会・環境的な要因とのトレードオフを考慮すること

国内/国際的な栄養に関する優先事項、N4G参加原則およびN4G Accountability Frameworkとの整合性をとること

N4Gにおける「コミットメント」の原則

- 「コミットメント」とは何か

「国際栄養目標及びターゲットの達成に向けた進捗を支援する、計画的、政策的、あるいは財政的なもの」（コミットメント作成ガイドP9）

- コミットメントは同時に以下の4つの基準を満たす。

- **SMART**であること

- 国の優先事項に沿ったものであること （**どこの国？**）

- 栄養サミット参加原則に沿ったものであること （**参加原則とは？**）

- 説明責任の枠組み（＝N4G Accountability Framework）との整合性があること （**まだ出てない**）。

SMARTであること

- 具体的（specific）：具体的な行動を特定し、責任者を明示
 - 測定可能（measurable）：進捗を測定できる適切な指標の設定
 - 達成可能（achievable）：過去に達成された進捗のレベルに沿う。
 - 適切（relevant）：**世界的優先事項と課題**を反映し、過去に達成された進捗レベルに基づく
 - 期限付き（time-bound）：達成のための現実的な期限を明示、マイルストーンを特定。
- 世界的優先事項：SDGsターゲット2.2、3.4、世界保健総会で定められた低栄養、母乳育児、非感染性疾患、肥満に関するターゲット、第2回国際栄養会議の行動枠組み

国の優先事項に沿ったものであること (コミットメント作成ガイド10p)

- SUNが支持する国家栄養計画・目標に貢献。多分野に渡る。
- 現在の政策を改善し、実現可能○
- 現在の計画の規模・範囲・野心を拡大○
- 女性や十分に考慮されていないグループを含む。もっとも阻害されたグループへの支援計画を含む。
- 資金的コミットメントの場合は、新規拠出か。調達計画を含む○
- 費用対効果が高いか（経済モデル、エビデンスに即したものか） ○
- ジェンダーの影響や、栄養の成果の決定においてジェンダーが担う役割を考慮しているか
- 以下の内容に沿っているか
 - SDGターゲット2.2、3.4に沿っているか。
 - 世界保健総会で定められた低栄養、母乳育児、非感染性疾患、肥満に関するターゲット
 - 第2回国際栄養会議の行動枠組み

栄養サミットの参加原則に則ったもの

サミット参加原則 = SUNの参加原則

- 意図と影響に透明性がある○
- 包摂的である（＝ジェンダーなどに配慮）
- 権利に基づく○
- 交渉の意思がある○
- 予測可能で、相互に説明責任を果たすことができる○
- 費用対効果が高い○
- 継続的にコミュニケーションを行う○
- 誠実かつ論理的に行動する○
- 互いを尊重し合う○
- 負の影響をもたらさない（トレードオフの關係に配慮）

考慮すべき点一覧

《SMARTであること》

- 世界的優先事項と課題を反映（≡SDGs, 世界保健総会のターゲット、第2回国際栄養会議行動枠組み）

《国の優先事項に沿ったものであること》

- SUNが支持する国家栄養計画・目標に貢献。多分野に渡る。

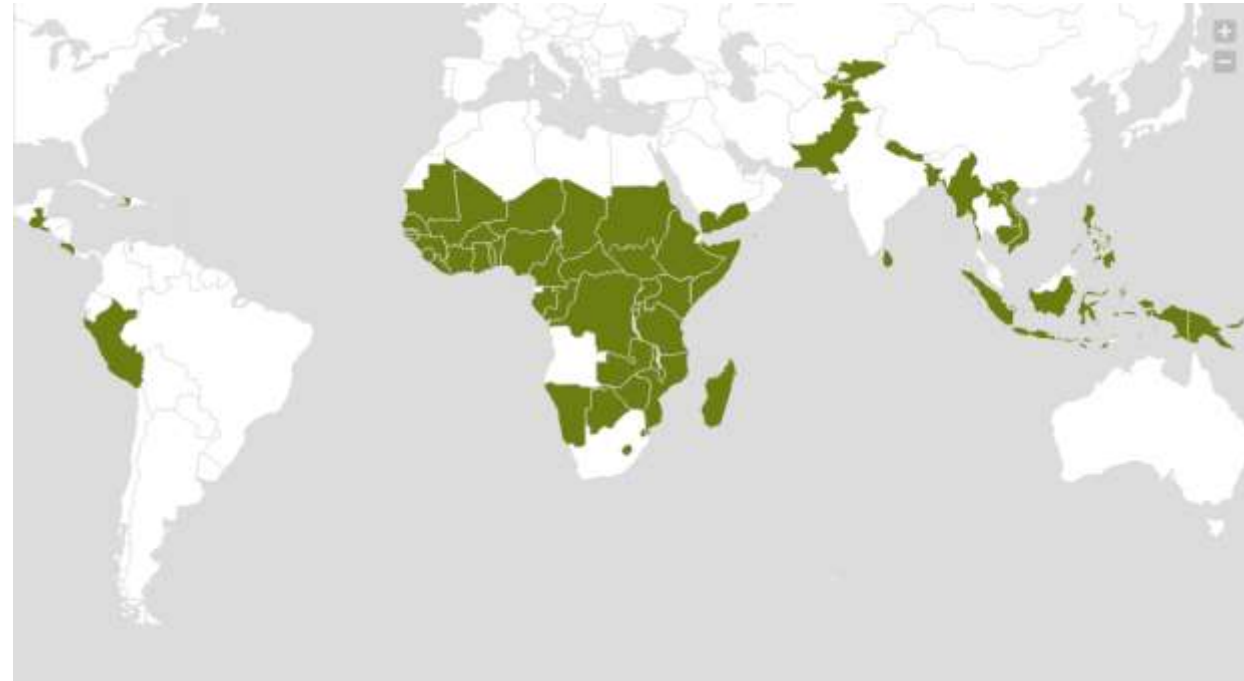
- 女性や十分に考慮されていないグループを含む。もっとも阻害されたグループへの支援計画を含む（ジェンダー）
- ジェンダーの影響や、栄養の成果の決定においてジェンダーが担う役割を考慮している（ジェンダー）
- SDGターゲット2.2、3.4に沿っているか。
- 世界保健総会で定められた低栄養、母乳育児、非感染症疾患、肥満に関するターゲット
- 第2回国際栄養会議の行動枠組み

《栄養サミットの参加原則に沿ったもの》

- 包摂的である（＝ジェンダーなどに配慮）
- 負の影響をもたらさない（トレードオフの關係に配慮）

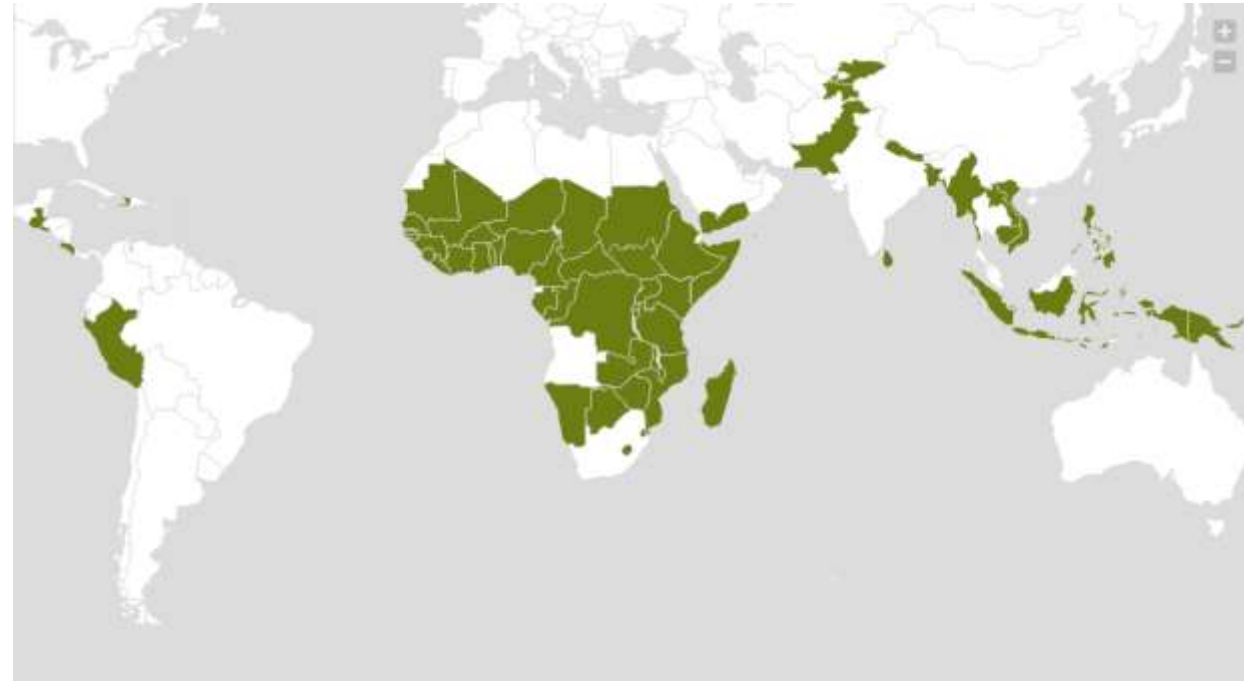
SUNが支持する国家栄養計画・目標

- SUNが支持する国家栄養計画（62か国）とはほとんどが発展途上国である。たとえば、アジア（南アジア含む）の国々は以下のとおり。
ベトナム、ラオス、カンボジア、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、ネパール、パキスタン、スリランカ、タジキスタン、カザフスタン
- これらの国々も対象に含まれるのかを個別でのコミットメント作成の際は再度確認が必要。
- **※これらの国々を必ずしも含まなくてはいけないというわけではない（あくまでも推奨）**



負の影響をもたらさない（トレードオフ）

- **経済・環境・社会**が両立することが持続可能な開発。
- 一方がプラスの影響でも、片方がマイナスの影響になってはならない。
- **タンパク質摂取推進：高タンパク食品の開発（＋）、利益が出ない（－）、生産面の環境負荷が高い（－）⇔栄養価の高い食品開発（＋）、価格が適正で売上が伸びる（＋）、環境にやさしい生産システム（＋）**
- 三側面からプラスになるようなことを考える。



世界的優先事項と課題の反映

【SDGs=世界の達成目標（解決すべき事項）】

- Pledgeの提供する枠組みにおいても、SDGsの目標2および3に重点を置いた企業戦略が重要視されている。特に、コミットメント作成ガイドではSDGの目標2のターゲット2.2（あらゆる形態の栄養不良）、SDGの目標3のターゲット3.4（非感染性疾患）にコミットメントが沿っているかが重要視されている。
- Responsible Business Pledge for Better Nutrition（Pledge）でも、公式声明の実施の際に「「2030年持続可能な開発アジェンダ」における中核として、栄養改善というグローバルな課題の緊急性を認識する」とあり、**これはSDGsを規定している2030アジェンダを指している。**
- GAINが行ったIdentifying SMART Business Pledge for the 2021においても、**企業戦略に栄養関連のSDGs（直接的には、目標2：飢餓をゼロに、と3：すべての人に健康と福祉を）**を置くことが求められている。

SDGsの目標2（飢餓をゼロに）、ターゲット2.2（あらゆる形態の栄養不良）

- 目標2「飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、**持続可能な農業**を促進する」
- ターゲット2.2：5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成する（＝世界栄養目標：母子の低栄養、NCDs）など、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び**高齢者の栄養ニーズ**への対応を行う。
- 指標：
 - 2.2.1：5歳未満の子供の発育阻害の蔓延度（WHO子ども成長基準で、年齢に対する身長が中央値から標準偏差-2未満）（総務省サイトより）
 - 2.2.2：5歳未満の子供の栄養不良の蔓延度（WHOの子ども成長基準で、身長に対する体重が、中央値から標準偏差+2超又は-2未満）（タイプ別（やせ及び肥満））（総務省サイトより）
 - 2.2.3：15歳から49歳の妊婦（要確認）の貧血の蔓延度（Prevalence of anaemia in women aged 15 to 49 years, by pregnancy status (percentage)（UNDPサイトより、仮訳））

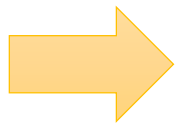
SDGsの目標2、ターゲット2.2：ビジネスアクション

【役立つ可能性のあるビジネスアクション】

- ビジネスが人々の食生活や食料へのアクセスに関し重大な影響があることを認識する。健康でバランスの取れた食事に役立つ食べ物を提供する（☒各成長段階、女子・妊産婦、高齢者のタンパク質摂取ニーズに合わせた食品・食事の提供）。人々が自らの購買力を考慮した上で、栄養価の高い食品を購入できるように、公正な価格を設定（☒購入可能な価格のタンパク質補給食品）する。
- 顧客が情報に基づいて選択できるよう、栄養情報（☒アミノ酸スコアなどの分かりやすい表示）などの製品に関する十分な情報を提供する。
- トレーニング、カウンセリング、その他の職場プログラムを通じて、栄養も含め健康問題に関する従業員の意識を高める。
- 子供が使う、消費する、あるいは子供が接する可能性のある製品やサービス（☒子ども用の菓子類や飲料の安全性）は、安全で、精神的、道徳的、また身体的な害を及ぼさないことを保障する。子供にとって適切でない、あるいは有害な製品やサービスに、子供がアクセスできないよう制限する。さらに、子どもを虐待する、搾取する、または子どもに危害を与える製品やサービスのリスクの防止および撲滅に向けて働きかける。

SDGsの目標3（すべての人に健康と福祉を）、ターゲット3.4（非感染性疾患）

- 目標3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- ターゲット3.4：2030年までに非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 指標
 - 3.4.1 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率
 - 3.4.2 自殺率



必ずしも「タンパク質摂取」に直接関連しないが、他の栄養素・調味料・添加物と絡めたビジネスアクションが考えられる

SDGsの目標3、ターゲット3.4：ビジネスアクション

【役立つ可能性のあるビジネスアクション①】

- 自身と家族の健康と福祉に十分な生活水準を得るという全ての人々の権利を尊重する。これには医療や必要な福祉サービスを含む。また、**失業、疾病、障害、パートナーの喪失、老齢その他自らコントロールすることが困難な生活状況の変化に対する保障**（☒体の状態に合わせた食事管理）を受ける権利を守る。
- 従業員とその家族に提供される医療保険や、**健康や福祉に重点を置いた会社のプログラム（例：運動や健康プログラム、禁煙プログラム、体重管理、メンタルヘルス電話相談）**を含む、予防医療へのアクセスを支援する（☒運動とタンパク質摂取を組み合わせた体重管理プログラム）。
- 従業員とその家族に提供される医療保険にメンタルヘルスケアが含まれることを保障するなど、メンタルヘルスケアへのアクセスを支援する。
- 施設周辺の安全で健康的な環境を促進し、アクティブ・モビリティ（徒歩や自転車など、自らの身体を用いた移動手段）やスポーツを促進する。

SDGsの目標3、ターゲット3.4：ビジネスアクション

【役立つ可能性のあるビジネスアクション②】

- 上記のプログラムだけでなく、親や保護者が育児で最適なケアを行えるように、彼らに対する福祉、困難な状況への対処力・回復力の支援を提供することで、子どもの福祉に貢献する。労働時間の配慮、柔軟な勤務時間の提供、正社員雇用契約（可能な限り）、利益団体の活動の奨励、また、子どもがいる従業員、特にシングルマザーの支援等を通して、実践的な支援を提供する。
- 地域で暮らす人々、または**サプライチェーン上で働く人々（☒原材料調達による健康上の負の影響を避ける）**のために、糖尿病、心血管疾患、癌および呼吸器系疾患のような非感染性疾患のリスクを増加させる、或いは症状悪化の原因になるとされている環境中の汚染物質、化学物質および有害物質を制限、さらには根絶する。
- **原料、製品、サービス、マーケティング活動により生じ得る健康への悪影響から、消費者およびエンド・ユーザーを守る責任を負う。健康への悪影響を最小限に抑え、好影響を促進するために積極的に取り組む。原料、製品、サービスが消費者およびユーザーの健康に及ぼす短期的及び長期的なリスクについて市民に周知し、手頃な価格の医薬品を提供するための技術革新に取り組む。（☒適正なPFCバランスを実現する食品の開発、より健康的なファーストフードの開発）**
- **食料生産における砂糖、塩、脂肪の使用に関することなど、非感染性疾患を減らすための政府の取り組みを支援する。（☒適切な砂糖・塩・脂肪の使用を後押しする食事バランスの推進）**

SDGsの目標2、ターゲット2.1（飢餓撲滅と栄養改善）

- 目標2：「飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、**持続可能な農業**を促進する」。
- ターゲット2.1：2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層および幼児を含む**脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分**得られるようにする。

→ ターゲット2.2にある世界栄養目標以外にも、ゴール2には**栄養改善を持続的な食の視点から扱うものが多く含まれ得る。「誰」にとっての「栄養（のある食料）」で、「安全」かつ「十分」であることが重要。**

SDGsの目標2、ターゲット2.1：ビジネスアクション（例）

【役立つ可能性のあるビジネスアクション①】

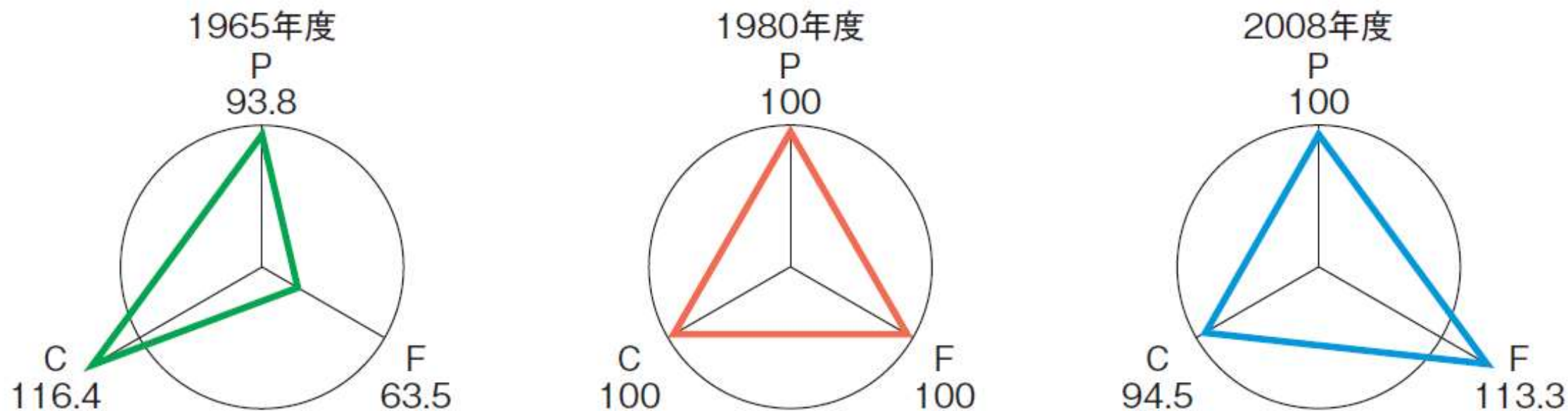
- 人権を尊重し、飢餓と栄養不良の根底にある、貧困、土地権利の剥奪、差別を含む、人権侵害を認識する。**安全で栄養価の高い食品（☑ニースの高いターゲット層への高タンパク食品）へのアクセス**を含む、適切な生活水準への普遍的な権利を尊重する。世界の食料の多くを生産するが、しばしば貧困状態に暮らす小規模農家や農業労働者（特に女性）など、貧困層や脆弱な状況にある人々の飢餓や**食料のアクセスに対する企業自身の影響**を認識する。
- **世界的な食料システムと農業生産を持続可能で環境に配慮した慣行に変えることにより、成長する世界人口を持続的に養う新しい方法を特定する。（☑持続可能な生産による「タンパク質危機」の克服）**
- 天然資源を一層有効に活用するための農業システムを開発または改革するために、人々の栄養の原則に関する理解を促し、そして他の利害関係者と協力して、（既存および新規の）科学的知識を最大限に活用して食料の生産、保存および分配を改善する。

SDGsの目標2、ターゲット2.1：ビジネスアクション（例）

【役立つ可能性のあるビジネスアクション②】

- ビジネスの業務上あるいは従業員/消費者の消費上発生する**食料の浪費と損失を減らす**、あるいは**余剰食料を再分配する方法**を見つける。食品のバリューチェーン、特に農業、原材料、生産、梱包、販売など**食料と飲料のサプライチェーンにおける効率性**を向上させる。（☒ **サプライチェーン上のタンパク質・アミノ酸の損失を減らす、フードバンクの活用、廃棄されにくい食品の開発**）
- 栄養情報、適切な貯蔵および安全な使用などに関する責任ある情報提供、製品開発、相対価格設定を通じて、**栄養価の高い食品の利用可能性を改善する**。（☒ **アミノ酸スコアなどの分かりやすい表示、トレーサビリティの向上**）
- **サプライチェーンにおける農業生産が、重要な社会的および環境的影響を有するビジネスであるという、責任を認識する**。業務の一部を外部に委託する際には、**農家、労働者、疎外された/発言権が低いグループ、そして影響を受けた地域社会に対する社会的および環境的影響を評価する**。（☒ **高タンパク食品のサプライチェーンにおける社会的・環境的影響の調査**）

日本のエネルギー産生栄養素の摂取比率 (PFCバランス)



資料：農林水産省「食料需給表」

注：1) PはProtein (たんぱく質)、FはFat (脂質)、CはCarbohydrate (炭水化物)

2) 数値は1980年度のPFC比率 (P : 13.0%、F : 25.5%、C : 61.5%) を100とした時の指数

出典：平成21年度食料・農業・農村白書（農林水産省）

世界のPFCバランス（日本の1980年を理想型として）

①欧米

国	年度	割合（％）			指数（日本の80年度＝100）		
		タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)	タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)
日本	2017	12.8	29.2	58.0	98.634822	114.53915	94.260145
米国	2017	12.1	40.0	48.0	92.921114	156.67511	77.996914
イタリア	2017	12.1	38.7	49.2	93.207531	151.78876	79.96242
スペイン	2017	13.1	41.1	45.8	100.67278	161.0577	74.54116
ニュージーランド	2017	11.5	33.2	55.3	88.609139	130.0722	89.938863

出典：FAO STAT

- ・（肉食中心の）脂質偏重型で、炭水化物が少ない
- ・ニュージーランドでは、炭水化物の割合が比較的高い

世界のPFCバランス（日本の1980年を理想型として）

②東南アジア・南アジア

- ・タンパク質の割合が低く、炭水化物偏重型で、1965年以前の日本に近い国（バングラデシュ、インドネシア、タイ、インド）
- ・特に、タイとバングラデシュでタンパク質の割合が低い（バングラデシュでは脂質も低い）
- ・脂質の割合が高く、欧米に近い国（マレーシア、パキスタン）
- ・比較的理想的なバランスに近い国（ベトナム、ただしミャンマーは世界的にもタンパク質の割合が他国より高い）

国	年度	割合（％）			指数（日本の80年度＝100）		
		タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)	タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)
インドネシア	2017	9.5	17.2	73.3	72.967944	67.441766	119.2138
マレーシア	2017	10.9	28.3	60.9	83.624026	110.7958	98.985281
ベトナム	2017	12.3	24.0	63.7	94.287061	94.241781	103.59517
タイ	2017	8.6	20.4	70.9	66.350917	80.154864	115.34129
ミャンマー	2017	13.8	26.7	59.5	106.3424	104.51031	96.789205
バングラデシュ	2017	9.3	11.7	79.0	71.376082	46.034623	128.4265
インド	2017	10.4	20.2	69.4	80.379263	79.148638	112.79316
パキスタン	2017	11.4	28.4	60.2	87.675765	111.3321	97.90646

出典：FAO STAT

⇒ エネルギー摂取のタイプが隣国でも大きく異なるほど多様。米食だから日本に近いとは言いきれない。一方、タンパク質の割合が低い国も多く、高齢化のような人口動態に注意。

世界のPFCバランス（日本の1980年を理想型として）

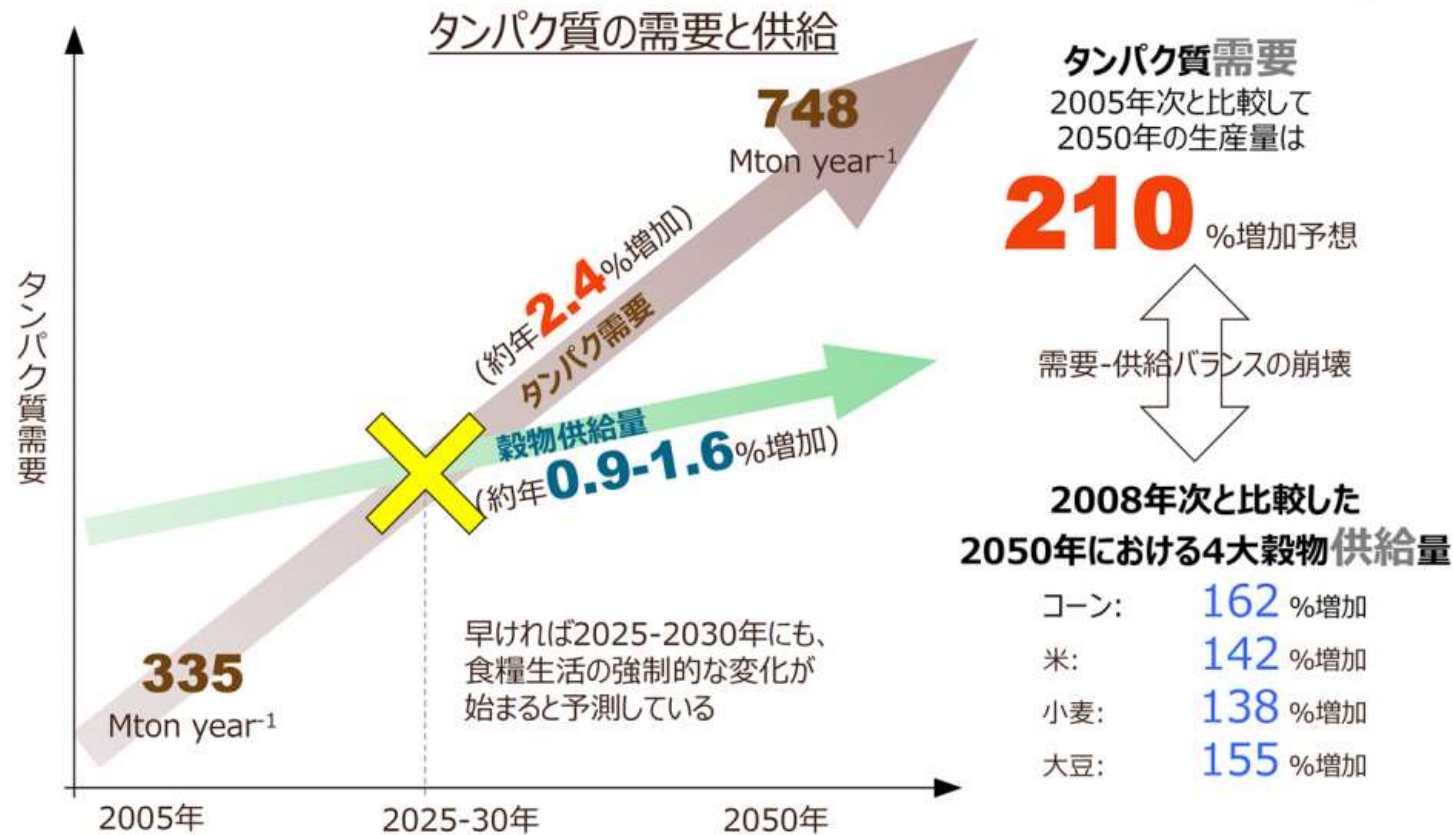
③アフリカ、中南米

- ・アフリカは、アラブ諸国を含め、炭水化物偏重型（南アであっても）
- ・特に、西アフリカでタンパク質の割合が低い可能性
- ・中南米は（肉食中心の）欧米食寄りで、脂質偏重型の国が多い
- ・チリが理想型に近く、ペルーは脂質の少ない炭水化物偏重型

国	年度	割合（％）			指数（日本の80年度＝100）		
		タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)	タンパク質 (P)	脂質 (F)	炭水化物 (C)
エジプト	2017	11.6	15.4	73.0	89.356074	60.484429	118.6344
モロッコ	2017	11.6	18.0	70.4	89.292708	70.734511	114.3978
セネガル	2017	9.3	25.3	65.4	71.260643	99.312862	106.3599
ナイジェリア	2017	9.1	18.1	72.8	69.918699	70.97561	118.3932
ケニア	2017	11.5	19.1	69.4	88.137557	74.889965	112.91899
南アフリカ共和国	2017	11.2	24.7	64.2	85.869537	96.79592	104.31545
ブラジル	2017	11.2	34.5	54.3	86.030769	135.3122	88.311194
アルゼンチン	2017	12.7	32.5	54.8	97.522977	127.62109	89.070952
チリ	2017	11.8	26.4	61.8	90.629557	103.67574	100.45666
ペルー	2017	11.3	16.2	72.5	87.1591	63.457982	117.8659
メキシコ	2017	11.5	27.8	60.7	88.114464	109.16477	98.712363

出典：FAO STAT

「タンパク質危機」 (global protein crisis)



1日に必要なタンパク質は体重の1/1000だと言われており、1人当たりの平均体重を50kgと仮定した場合、2050年には年間約**1.8億トン(1日あたり50万トン)**のタンパク質の供給が必要になる。

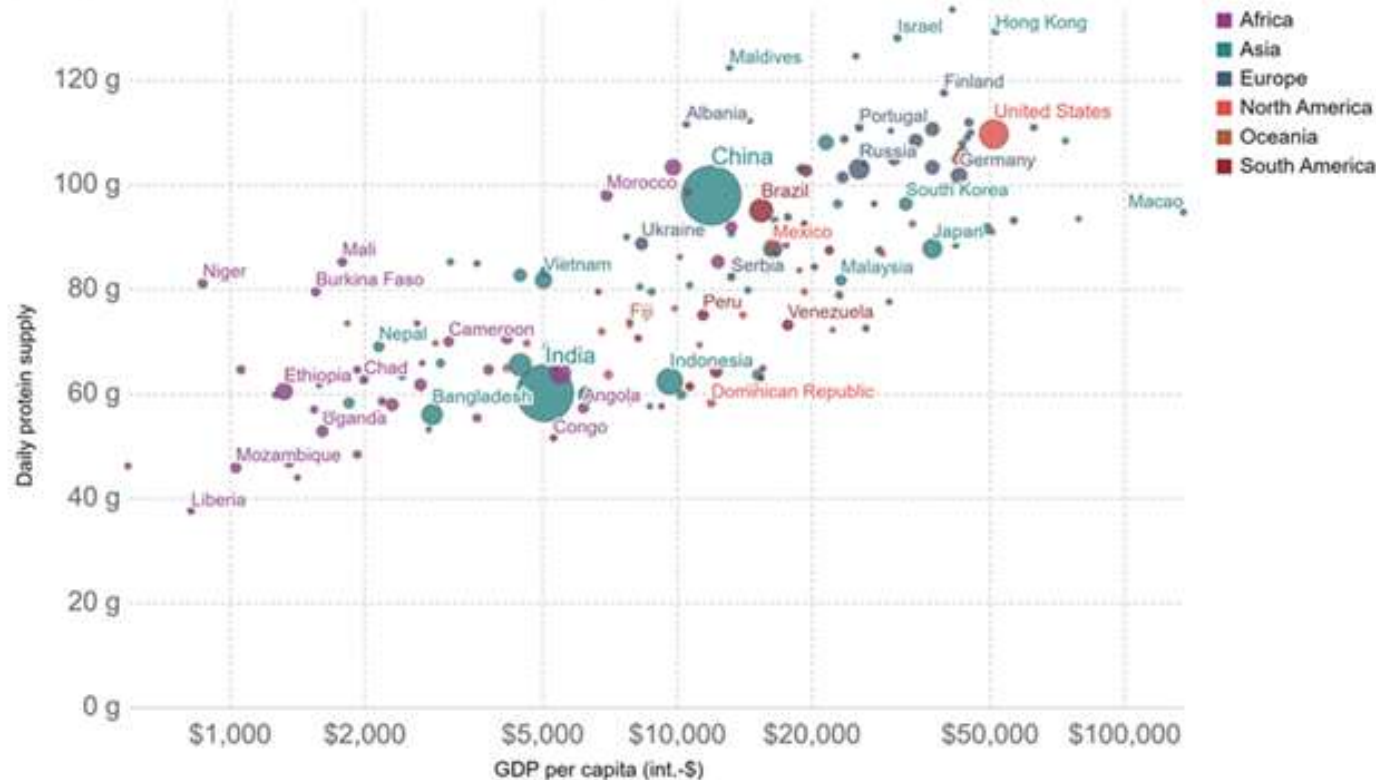
つまり、2050年には2005年時のタンパク質の**約2倍**の供給量が必要になるとの計算だが、現在の農業・畜産業の在り方のままでは早ければ**2025～30年頃には需要と供給のバランスが崩れ始めると予測されている。**

経済規模とタンパク質の消費

Daily per capita protein supply vs. GDP per capita, 2013

Daily per capita supply of calories is measured in kilocalories per person per day. Gross domestic product (GDP) per capita is measured in 2011 international-\$, which adjusts for inflation and cross-country price differences.

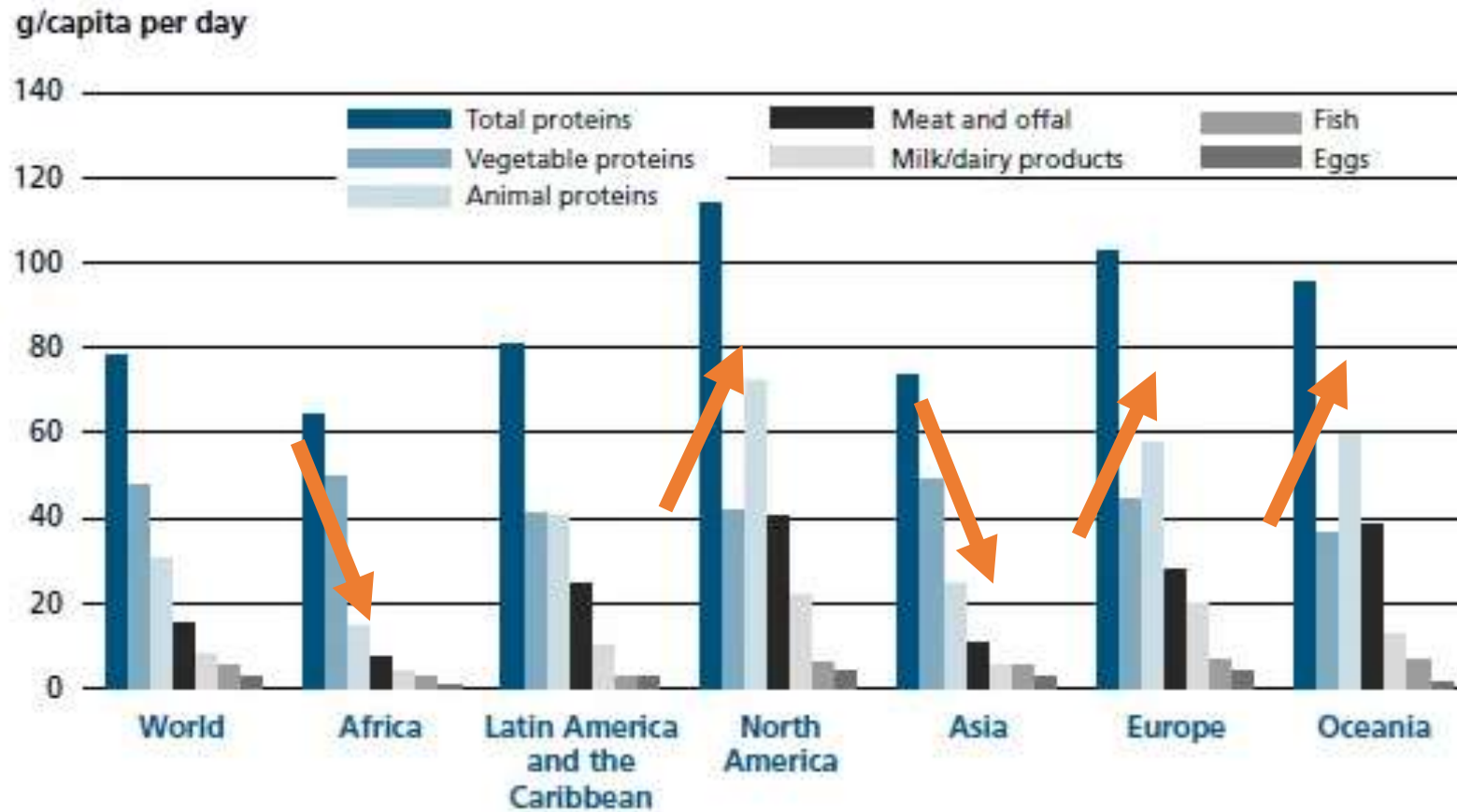
Our World
in Data



OurWorldInData.org/food-per-person • CC BY

日本企業が海外展開に関心を持つ国には、GDPと人口規模の大きさによる市場のポテンシャルが高い国が多いとすると、一人当たりGDPが高くなると**タンパク質の供給量（消費）**が増える傾向にある。このため、これらの市場に供給するタンパク質の生産効率性と持続性を高めないと、**「タンパク質危機」**の壁にぶつかる可能性があるのではないかな。

タンパク質・タンパク源の種類（地域別）

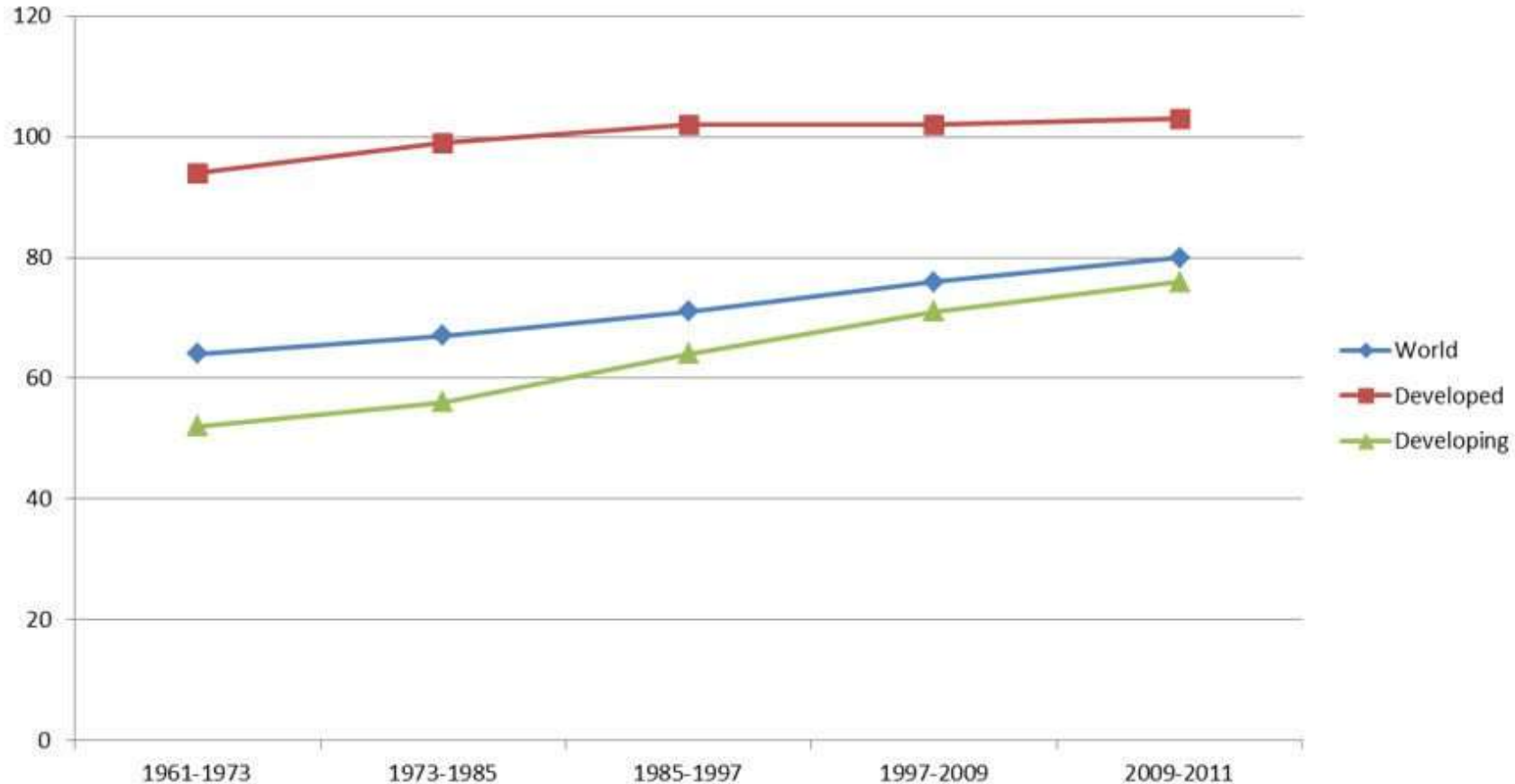


Source: FAO Fisheries – The State of World Fisheries and Aquaculture, 2008
PART 1: World review of fisheries and aquaculture, p. 49

途上国でタンパク質の消費が伸びている

Evolution in protein consumption per capita (g/capita/day)

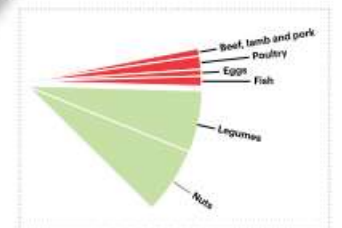
Source: FAOSTAT



「人新世の食料：持続可能な食料システムによる健康的な食事に関するEATランセット委員会」報告書

- **赤肉**や砂糖のような不健康な食品を削減し、**環境負荷が多くなる肉類の消費**をできる限り減少させ、**果物、野菜、豆類の増加を勧め、牛乳・乳製品は適度に摂取**することを勧めている。
- 世界中の国々が、今後、「**水使用の減少**」、「**窒素とリン汚染の削減**」、「**二酸化炭素排出量ゼロ**」、「**メタン及び亜酸化窒素排出量の抑制**」ができる**農業、調理、流通、加工、献立等の開発**に取り組む必要性を述べている。
- なお、EATランセット報告書が出版されて以降、畜産物の推奨量があまりにも少なく、植物性食品に片寄っていることから、現実性が乏しいことや関連する業界に与える影響があまりにも大きすぎるとの意見が出始め、今後、広範囲な議論が必要である。
- **WHO「持続可能で健康的な食事」**（2019年）には、**健康面、環境面、社会面における食事の影響**に関する指針が定められている。

and health outcomes (see Table 1).



「Planetary Healthy Diet」
（惑星のための健康的な食事）

事例：The Protein Challenge 2040

<https://www.forumforthefuture.org/protein-challenge>

「Forum for the Future」が推進する、マルチステークホルダーによる、イニシアティブ。全世界の100億人に、健康的で、安価なタンパク質を、地球に良い方法で供給するため、NGOや企業が協働で、食品システムの変革を目指す。

- 重点分野1：西洋の食生活における**タンパク質のリバランス**
 - a. 肉の食感や味を再現した肉・乳製品代替品の開発
 - b. 動物性タンパク質と比較して、環境と健康にメリットをもたらす、伝統的な植物性タンパク質の供給源と食事を促進する。
 - c. 環境負荷を低減するために肉の含有量を減らすように製品を改良する。

タンパク質の持続可能な供給を考えるために (フードシステムサミットの結果も重要)

